

川崎医療短期大学紀要投稿規定

1. 名 称 和文名は川崎医療短期大学紀要とし、英文名は BULLETIN OF KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS とする。
2. 発 行 年1回12月とする。
3. 投稿資格者 1) 筆頭著者は川崎医療短期大学の専任教職員又は元専任教職員に限る。
2) 編集委員会から執筆を依頼された者は上記の限りでない。
4. 投稿の内容 投稿論文は未発表のものとし、和文又は英文とする。
5. 投稿の予約 投稿希望者は5月末までに「投稿希望用紙」に所定事項を記入の上、各学科編集委員を通じて編集委員長へ提出する。
6. 倫理的配慮 投稿論文は、生命倫理に十分な配慮がなされたもの、個人情報保護のために必要な処置を講じたもの、利益相反の有無を公開したものとする。
7. 掲 載 料 1) 刷り上がり6頁以内は無料とし、超過分については著者がその実費を負担する。
2) 色刷りの場合は、著者がその実費を負担する。
3) 掲載論文の別刷は50部まで無料とし、超過分については著者が負担する。
8. 原稿の提出 提出期日は7月末とし、指定の「投稿カード」に必要事項を記入の上、原稿と共に各学科の編集委員を通じて編集委員長へ提出する。原稿の受理日は、それが編集委員会で採択された日とする。
9. 編 集 1) 投稿された論文の採否は編集委員会で決定する。
2) 提出された原稿について、加除・訂正を助言することがある。
3) 著者による校正は再校までとし、その後は責任校了とする。校正時における内容の大幅な変更や追加は認められない。
10. 原稿の返却 著者から提出された原稿並びに図、表、写真などは、紀要発行後返却する。
11. 著 作 権 掲載された論文の著作権は川崎医療短期大学に帰属する。
12. 電子媒体による公開 本紀要の論文は「川崎医療短期大学学術機関リポジトリ」にデータ登録され、<https://kwtan.repo.nii.ac.jp>にて公開される。
13. そ の 他 この規定の改訂は、編集委員会、教授会、運営委員会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規定は、平成8年1月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成10年7月16日から施行する。

附 則

この規定は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規定は、平成29年4月1日から施行する。

執 筆 要 領

1. 原稿の体裁および内容

- 1) 和文：原稿は、手書き、ワープロ・ソフトのいずれでもよい。手書きの場合は原稿用紙を使用し、黒色のペン字で楷書とする。ワープロ・ソフトを使用する場合には、A4版の用紙を使い、1行40文字20行の体裁で仕上げる。
- 2) 英文：原稿はA4版の用紙を使い、ダブルスペースでタイプする。
- 3) なお、ワープロ・ソフトを使用した場合は、和文、英文とも、片面印刷でプリントアウトした原稿とともに、USBメモリ等の記録メディア（表に筆頭者の氏名・機種・ソフト名を明記のこと）を同時に提出すること。データの形式は、できるかぎりテキスト形式で提出する。
- 4) 原稿は、原則として刷り上がり6頁以内とする。和文の場合は文章のみで11,000文字程度。
- 5) 文献の数は必要最小限にとどめる。
- 6) 原稿添付の図、表、写真の大きさは台紙を含めて40×30cm以内とする。

2. 表題等（第1ページに記載）

以下の例に従って、論文の表題、著者名、所属学科（機関）名称、受理年月日（実際の月日は編集委員会で採択後記入するので、空けておく）キーワード、ランニングタイトル（ランニングヘッド）を記載する。著者が複数で、所属学科（機関）が異なる場合は、それぞれの所属を番号によって区別し、筆頭著者を1としてすべての著者に番号を付ける。

（例）

表 題：医学用語の構成についての研究
氏 名：川崎理子¹、松島久代²、山田花子²、松島太郎³
所 属：¹川崎医療短期大学 一般教養
²川崎医療短期大学 医療秘書科
³川崎医科大学 内科

受理年月日：（空けておく）

英文タイトル：A Review of Word-Building System for Medical Terminology

英 文 氏 名：Noriko KAWASAKI¹, Hisayo MATSUSHIMA², Hanako YAMADA² and Taro MATSUSHIMA³

英 文 所 属：¹Department of General Education, Kawasaki College of Allied Health Professions

²Department of Medical Secretarial Studies, Kawasaki College of Allied Health Professions

³Department of Internal Medicine, Kawasaki Medical School

キ ー ワ ー ド：語幹、医学用語、接頭辞（5語以内とする）

ランニングタイトル：医学用語の構成（ランニングタイトルは簡潔に；24字以内とする。）

3. 概要（第2ページに記載）

論文が和文の場合は和文で400字以内、英文の場合は英文で250語以内にまとめる。この概要は、本文と切り離しても内容が分かるように書くこと。

4. 本文（第3ページ以降）

- 1) 見出しは、以下のようにすることを勧める。
 1. 緒言
 2. 研究方法（材料・方法）
 3. 結果
 4. 考察
 5. 謝辞（必要な場合に記す。学会や研究会で口頭発表した実績などはここに入れる）
 6. 文献
- 2) 本文に節を設ける場合、(1), (2)……をつけて節を示す。節の見出しは簡潔にする。
- 3) 本文は原則として常用漢字、新仮名遣いとする。外国人名や専門的な術語は、学会などで一般に用いられているものを使用し、原綴り又はカタカナ書きとする。
- 4) 略語を用いる場合は、初出のときに完全な用語と（ ）内に略語を書き、専門外の読者にも分かるようにする。
- 5) 度量衡の単位は以下のようにする。
 - a) 重さ：kg, g, mg, μ g, ng
 - b) 長さ：m, cm, mm, μ m, nm

c) 容量：L, dL, mL, μ L

d) 濃度：g/L, g/dL, mg/dL

6) 日本語原稿の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし、漢字と結合して名称を表すものは、漢字とする。

(例) 1つ, 2～3時間, 数十個, 一例

7) 文字の指定については、原稿に赤で次のように指示する。

a) 斜体(イタリック体)文字には、下に_____ (直線)をつける。

b) 太字体(ゴシック体)文字には、下に~~~~~ (波線)をつける。

5. 図, 表, 写真

1) 図・表は、そのまま印刷できる鮮明なものを1図1表ずつ別紙に作成し、提出する。

2) 図表の右上余白に、筆頭著者と図または表の番号を図1, 図2……, あるいは表1, 表2……のように記し、刷り上がりのサイズを指定する(原寸, 1/2, 1/4など)。図, 表は本文とは別に、原稿の末尾に順番にまとめる。

3) 写真については、手札以上のサイズで鮮明なものであること、また、原稿用紙と同じ大きさで厚めの台紙に貼って提出する。カラー写真の場合は、刷り上がりの色調や費用について、事前に編集委員会に問い合わせをすることが望ましい。

4) 図, 表の本文への挿入箇所は、原稿本文の右欄外に、図または表の番号を鉛筆で書き込む。

6. 文献

1) 本文中の記載方法は、1つの文献に1つの番号とし、本人搭乘した順に通し番号を肩付き数字で…¹⁾, …^{2,3)}, …⁴⁻⁶⁾のように示す。同一文献が複数回使用される場合、同じ番号を付す。同一文献の異なる箇所を引用する場合で、それぞれのページ番号を明示したいときは、末尾の「文献」欄ではなく、本文中で記載する。また、本文中で著者名を記す場合は、原則として性のみとする。著者が2名の場合は2名を「と」または「and」でつなぎ連記する。著者が3名以上の場合は筆頭者のみとし、「他」または「et al.」として略記とする。

2) 文献欄の記載方法は以下の例に従うこと。

(1) 雑誌論文の場合

・著者名(全員)：論文題目, 掲載雑誌名, 巻(号), 開始頁—終了頁, 発行年(西暦)。

注 欧文雑誌名の省略は原則としてIndex Medicusに従う。

(例)

・松島次郎：川崎医療短期大学におけるこれからの教育, 川崎医療短期大学紀要, 7, 51—64, 1991.

・Ford LE, Huxley AF and Simmons RM: Tension transients during the rise of tetanic tension in frog muscle fibres, J. Physiol, 372, 595—609, 1986.

(2) 単行本

① 単著の場合

・著者名：書名, 版, 出版社名, 発行地, pp 開始頁—終了頁, 発行年(西暦)。

(例)

・小川耕三：脳の解剖学, 初版, 南山堂, 東京, pp94—130, 1965.

・Brock S and Krieger HP: The Basis of Clinical Neurology, 8th ed, Williams and Wilkins, Baltimore, pp53—85, 1963.

② 編著者の一部の場合

・該当部分の著者名：論文の表題, 編著者名, 書名, 版, 出版社名, 発行地, pp 開始頁—終了頁, 発行年(西暦)。

(例)

・白居敏仁：病理学的検査法, 白須泰彦, 松岡理編, 新しい毒性試験と安全性の評価, 第2版, ソフトサイエンス社, 東京, pp231—280, 1978.

③ 翻訳本の場合

・原著者名/訳者名：翻訳書の書名, 版, 出版社, 発行地, pp 開始頁—終了頁, 翻訳書の発行年(西暦)。

(例)

・Bulman C., Schutz S. 編/田村由美, 池西悦子, 津田紀子監訳：看護における反省的实践, 原著第5版, 看護の科学社, 東京, pp 8—34, 2014.

(3) オンライン版

① DOIのない場合

・著者名：論文タイトル, 収載誌名, 巻(号), pp 開始頁—終了頁, URL, 発行年(西暦)。(確認年/月/日)

② DOI がある場合 * DOI (Digital Object Identifier デジタルオブジェクト識別子)

・著者名：論文タイトル，収載誌名，巻（号），doi：DOI 番号。（確認年／月／日）

（例）

- ・永瀬 節治：近代的並木街路としての明治神宮表参道の成立経緯について，ランドスケープ研究（オンライン論文集），2，pp46—53，http://www.jstage.jst.go.jp/article/jilaonline/2/0/46/_pdf/-char/ja/，2009。（確認2016/6/7）
- ・Stephanie H. Chanteau and James M. Tour：Synthesis of Anthropomorphic Molecules：The NanoPutians, *Journal of Organic Chemistry*, 68(23), doi：10.1021/jo0349227.（確認 2009/10/15）

(4) web ページなど，逐次的な更新が前提となっているコンテンツを引用する場合

・当該資料の作成者（著者名）：資料題名，URL，資料公開年（西暦）。（確認年／月／日）

注 ①当該資料の作成者が不明の場合は，サイト全体の作成者名を記載する。

②外国語資料の場合，資料題名はイタリック体とする。

③資料公開年とは別に，末尾に「資料をサイト上で確認した年月日」を付記する。

④冊子体で刊行されているものがある場合は，刊行されているものを優先する。

- ・厚生労働省医政局看護課：看護職員就業状況等実態調査結果，<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000017cjh-att/2r98520000017cnt.pdf>，2011。（確認2016/4/11）
- ・World Health Organization：Global strategy to reduce harmful use of alcohol，http://www.who.int/substance_abuse/activities/gsrhua/en/，2015。（確認2015/7/31）

7. 注

- 1) 注が必要な場合は，本文中に注番号を記載し，その番号順に注を記載することができる。
- 2) 注は，文献の前に記載する。
- 3) 注は，文献の記載と区別するために，以下のように記載する。

（例）

松島は，専門職養成のミニマム・エッセンシャルズ^{注1)}について「知識・技能・態度のトータルな育成が不可欠である。」¹⁾と主張した。

注

注1) ここでいうミニマム・エッセンシャルズは，学習者に教えるべき最低限の教育内容を意味する教育学用語をさす。

文 献

- 1) 松島次郎：川崎医療短期大学におけるこれからの教育，川崎医療短期大学紀要，7，51—64，1991.

8. その他

論文が和文の場合，250語以内の英文の概要（summary）を付けてもよい。